

住民の生命と暮らしを守る「新しい庁舎」をめざして

～愛南町新庁舎建設基本設計（案）の概要をお知らせします～



※愛南町新庁舎の外観イメージ図・・・今後、建物の意匠や色などは変更される可能性があります。

愛南町では、新庁舎建設に向けて、平成26年4月から新庁舎の基本設計作業を進めてまいりました。この度、建物の配置計画や構造規模、平面計画等を示した「基本設計（案）」がまとまりましたので、主な概要をお知らせします。

今後は「基本設計」に基づき、実施設計の作業を進めながら新庁舎完成をめざします。

新庁舎は、現庁舎北側及び今後予定されている城辺社会福祉会館等解体跡地に建設することとしています。解体工事に伴い、同会館内に配置されている所属課等が次のとおり移転予定です。（平成26年11月下旬予定）

新庁舎完成まで、住民の皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

所属課等の移転先

【御荘支所へ移転】

農業委員会、農林課、農業支援センター、商工観光課、就職支援センター

【現本庁舎2階へ移転】

環境衛生課

問合せ

企画財政課 TEL 72-7317

災害対策本部としての機能確保

◆災害対策本部は3階の大会議室に設け、消防本部とも連携して、各種の情報の収集・伝達、審議や指揮等が円滑に行えるようパソコン等情報機器やスクリーン等を備えます。また、平常時は多目的に利用できる会議室として分割可能とします。

◆自家発電設備や太陽光発電設備等を整備し、業務システムに何らかの障害が発生した場合でも、システム全体の機能を維持できるように備えます。また、不同沈下による被害軽減のため、配管の免震継ぎ手等変位吸収力のある部材を使用します。



イメージ

人にやさしく、親しみの感じられる庁舎

◆駐車場、アプローチから庁舎内は段差のないバリアフリーを徹底し、ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしい庁舎をめざします。

◆特に高齢者、子ども連れ、障害者の方等の目線から、大きく目立ちやすいサイン計画、多目的トイレや授乳室、キッズコーナー、車椅子置き場、エレベーター・階段の二重手摺り、窓口カウンターの様など人にやさしい施設とします。

◆内部は床、壁等部分的に地域産材を利用して木質化を図り、親しみ、温もりの感じられる庁舎とします。

◆プライバシーや情報保護に配慮し、窓口カウンターや執務空間との間仕切を設け、相談室も各階に設けます。

ワンストップサービスの提供

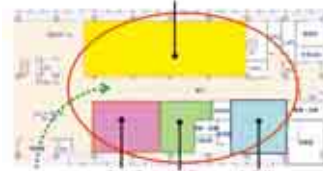
◆ワンストップサービスを第一に考え、シンプルな平面計画と動線により、機能的で住民の皆様が利用しやすい庁舎をめざします。

◆1階は住民フロアとして、住民の皆様の利用頻度の高い部署を配置し、ワンストップサービスを提供できる総合窓口化を図ります。

【ワンストップ窓口のタイプ】



保健福祉課・高齢者支援課・地域包括支援センター



【住民の利用が多い課を集中配置して総合窓口化】

明確なゾーニング(配置計画)による駐車場の確保

- ◆ 駐車場は新庁舎の配置から、庁舎建物の前面(南側)及び背面(北側)に設けます。
- ◆ 来庁者用、公用車用(県・町)、職員用に分けてゾーニングを行い、来庁者用は庁舎に近い建物前面、公用車は建物の北側及び県庁舎前、職員用は前面道路側に駐車スペースを確保する予定です。
- ◆ 敷地の前面道路側に歩道を設け、玄関までアプローチ歩道を整備します。

【全体イメージ】



あいなんバスルート(案)

東側町道の拡幅とあいなんバスルートの確保

- ◆ あいなんバスの運行経路は、東側町道を敷地側に拡幅する形で安全なルートを確認します。
- ◆ あいなんバスの停留所は庁舎東側に設け、庁舎内の待合い室でバス待合いができるようにします。



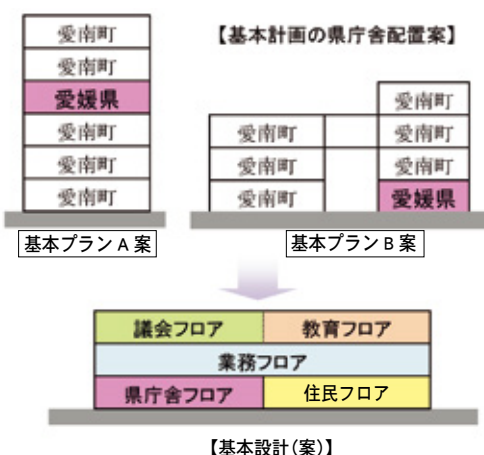
機能を保持しながら必要最小限の面積で

- ◆ 基本計画では、総務省及び国土交通省の基準による試算や近年の事例から検討し、基本プランA・B案ともに、愛南町庁舎部分の職員1人当たりの床面積が36~37㎡(基本計画時の職員数184人)となっていました。
- ◆ 基本設計では、機能性や利便性、快適性を保持しながら、必要最小限の面積とするため、愛南町庁舎部分の目標延床面積は、職員1人当たり30㎡と設定しています。
- ◆ 県庁舎の床面積については、現状の建物が3階建てで延床面積約1,300㎡であるため、1フロアに配置することにより1,000㎡程度に抑えることで計画しています。

【庁舎棟延床面積の計画目標】

愛南町庁舎+県庁舎→6,500㎡

1棟建、県庁舎を1階に配置



- ◆ 基本計画で1棟建(A案)と2棟建(B案)の基本プラン(案)2案を作成していましたが、利用者の利便性、業務の連携等の視点から、新庁舎は1棟建とします。
- ◆ 愛媛県(南予地方局愛南庁舎)との合同庁舎化が決定し、庁舎全体の平面構成や階数、1フロアの面積、上下動線の位置などを検討した結果、県庁舎は、土木関係と農林水産関係の現業的部門が配置されることから、利便性の良い1階に、町庁舎住民フロアに隣接して配置します。
- ◆ フロアごとの機能を明確にして、わかりやすく利用しやすい庁舎とします。

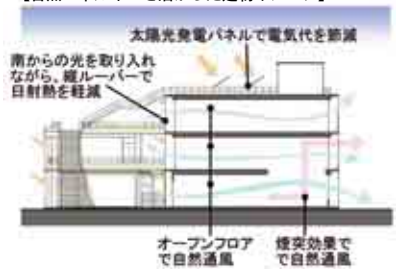
負荷の軽減と建物の長寿命化

- ◆ 自然エネルギーの有効利用とともに省エネ仕様の断熱材やペアガラスの採用により空調負荷の軽減を図ります。
- ◆ 内装は部分的に地域産材による木質化を図り、自然光でも明るく柔らかな空間を創出します。
- ◆ 外観は縦ルーバーとメンテナンスバルコニーを設けることで日射を軽減し、外壁を雨から保護します。バルコニーは避難経路にも利用できます。
- ◆ 執務空間をオープンフロアとし、間仕切りも可動間仕切り等を採用することにより、行政需要や機能変化に柔軟に対応できる建物となります。
- ◆ 床荷重や電気容量、階高等ゆとりのある設計により将来の変更等に配慮します。

自然エネルギーの積極的活用

- ◆ 建物は南北に面する各室は窓面を広く取り、自然の通風、採光が得られる計画とします。
- ◆ 一般の執務室はオープンカウンターとすることで自然の通風が得られ、中間期の空調費節減が図られます。
- ◆ エントランスホール北側は、2層吹抜とすることで北側からの採光を得るとともに、風の通り道となり煙突効果による換気が図られます。

【自然エネルギーを活かした建物イメージ】



シンプルで機能的な形状

- ◆ 平面は複雑な形状とせず、長方形のシンプルな形状と、桁行方向に6mの経済的なスパンとし、各階のトイレや階段の位置を統一してコストの低減を図ります。

予算配分に配慮したグレード設定

- ◆ 構造的には3階建・1棟、耐震構造とすることにより、一般的に免震構造に比べて約5%程度のコスト低減が可能です。
- ◆ 部材や設備機器等、重点的に予算配分する部分と汎用品や規格品の採用等により低減を図る部分とのバランスを考慮し、全体としてのグレードを確保します。